

ハンスト通信 NO.4 '80 DEM 15

サア叫いは今からだ！

木枯しの吹きれたる空の下、ハンストの3日目の朝を迎えました。今年一番の寒さはことさらに身にしみます。でも、とにかく3日間やったんだなあという気持ちと相俟って、少し引き締まる気持ちです。

毛布をかぶって、また黙々と通り過ぎる人を見ていると、私たちが3日間にうしていることを一体どう思っているのかなあ」と初めての日から持続して、いつまでも思い出します。でも、山の様にあったハンスト通信はアツという間になくなっています。配られたuturaが確実に読まれてます様に。

正後、ラジオの時報と共にハンスト貫徹！「やっと見えるぞ」との声もあがります。引き続き、正門前で総括集会です。ハンストを貫徹した人々から一人一人短いアヤーレがありました。ハンドマイクが順に回されました。何を言つたらいいのかなかなか浮びませんでした。『なぜ私はハンストをしたのか』この事を分つてもらうためのハンストだ、と訳ですが、実は自分でもまだよく分らないところがあります。自らの体を便うことで金大中氏のこと、韓国のことをしてもらおん知らん顔されることがあるのを承知の上で、みんなの正面にすえて、一人一人が自分にふりかかった出来事として考えてほしいと訴えるものだとやる前は考えていました。3日間が終った今、ハンストをやった者自身がこれからどうするかという大きな問題が、自分たちに残されていると感じています。自分ひとりに何ができるのか、例えは金大中氏を具体的に救えるのか、ということを考えるとやれることは限られてるかもしれません。私自身がこれから一番できることと言えば、まわりの人たちと話し続けていくことではないかと考えます。どれだけ時間があるか知らないが、緊迫した状況に

間に合うかどうか心配ですが、"立ち上かる瞬間"に行動できる基盤ができれば、と思うのです。

それにしても3日間、いろいろなことがアツという間に過ぎました。雨にぬれながらもuturaを配ってくれた人たち、しゃれいにuturaをとって署名しに来てくれた人たち、本当にうれしかった。でも、じつとこちらを見てから通りすぎて行った人のこともせつこに残ります。このuturaを読んでくれる皆さん、あなたの中にハンストは何かを残したでしょうか。

集合の最後はみんなでフリーパーを歌いました。金大中氏をめぐる状況はますます緊迫しています。行動はこれからです。

我々はフリーパー(根っこ)だ、ショッタショウ(いいせいいいせい)
共に死に共に生す、ショッタショウ
ひざをついで生きるよりは、たった今まで死のう
我々はフリーパーだ、我々はフリーパーだ
じやないが

12月18日 C代大

みなのがでC代大を成功させ、ストライキを貫徹するなかで、金大中氏ら死刑阻止に向けて共に考え共に戦つていこうではないか。

また、緊急実行委では16日に金大中氏死刑阻止、日韓連帯に向けた討論会を催したいと考えています。多くの諸君が参加されることを訴えます。

12.16 日韓連帯に向けた討論会

12.19 韓国領事館へ抗議行動

緊急行動実行委